

福祉関係者を対象とした結核予防対策の効果的展開	
北多摩南部保健医療圏 多摩府中保健所	
実施年度	開始 平成19年度、 終了（予定） 平成20年度
背景	当保健所管内の結核新登録患者は年間200～250名で、ここ数年は横ばい状態にある。その約三分の一が感染性の高い喀痰塗抹陽性患者である。さらに近年高齢者、住所不定者など診断に到るまでに多くの生活支援を受けている患者の発症が目立っており、それに伴い福祉関係者の接触していた事例が増えている。患者登録とともに関係者の接触者検診を実施しているが、実際に関係者が治療、予防内服が必要となった事例もある。患者支援の前提として感染予防対策が重要であり、講演会等を開催してきたところであるが感染予防の実践には十分とはいえない。効果的な普及啓発のあり方について検討、実施していくことを本事業の目的とする。
目標	平成19年度 感染予防対策の実態把握、課題整理 実情に合わせた普及啓発ツールの開発 平成20年度 普及啓発活動の展開
事業内容	1 関係機関を含めた検討会を立ち上げ、3回開催 2 在宅福祉関係者・生活保護ケースワーカーに対する実態調査を実施 3 感染予防対策における課題の整理と具体策を検討 4 普及啓発教材としてDVD作成
評価	1 検討会（PT）の意見を反映させ、在宅福祉サービス提供事業所及び生活保護ケースワーカーを対象とした実態調査、DVDの作成等の事業を展開した。地域の関係機関がメンバーに入ったことで、現場の責任者や実務者の経験や実情を踏まえた事業内容とすることができた。 2 実態調査の結果から、パンフレット、DVD等教材の要望とあわせて、既存パンフレットの活用がされていない等の課題が明らかになった。また、結核の感染経路や感染力等知識が不十分な点、マニュアルや感染予防のための必要物品が等把握できたため、より現場に即したDVDが作成できた。 3 DVD撮影時の出演など、メンバーの協力を得てすすめることができた。 20年度は、19年度作成したDVDを活用した普及啓発活動を展開し、その評価を行う。
問い合わせ先	多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策係 電 話 042-362-2334 ファクシミリ 042-360-2144 E-mail S0200168@section.metro.tokyo.jp

事業背景

高齢者、住所不定者からの結核発症

平成18年状況

核新登録患者 209人

(内、塗抹陽性 69人)

※内、福祉サービス利用者 15人(9人)

生活保護受給者 11人(5人)

福祉職員の結核感染事例の散見

平成18年状況

生活保護CW

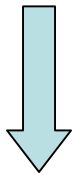
高齢者施設(介護士、ボランティア)

居宅サービス事業所(ヘルパー)



結核患者発生時の福祉現場での混乱・・・

- 1 サージカルマスクと、N95マスクを混同。
- 2 結核患者との接触後、職員の家族への感染を心配する。
- 3 結核患者と接触後、心配ですぐにX線検査やツ反を受けてしまう。
- 4 結核患者の家族が健診を終了するまで、在宅サービスをストップする。
ショートステイ等の施設の利用を断る。



- ・福祉職員に結核についての正しい知識を持ってもらいたい
- ・落ち着いて適切な対応が取れるよう事前対策の充実が必要
- ・少なくとも咳のある利用者と接する際には予防対策をとってもらいたい

福祉職員に対する結核の感染予防の普及啓発が急務！

ところで・・・

普及啓発についての課題は？

- 1 福祉職員は忙しくて、結核の研修を受ける時間がないのでは？
- 2 福祉現場で、既存リーフレットは活用されているの？
- 3 福祉職員向けの視聴覚教材がないなあ・・・



事業目標

- 1 在宅福祉サービス現場における結核感染予防対策の実態把握と課題の明確化
- 2 多忙な福祉職員が簡便に活用できる視聴覚教材を開発
- 3 視聴覚教材を活用した効果的な普及啓発のあり方の検討

平成19年度

1 関係者との検討会の開催

○ 検討会構成メンバー

所 属		職 種
武蔵野大学看護学部		保健師
府中市福祉保健部 高齢者支援課		保健師
小金井市福祉保健部地域福祉課		生保CW
狛江市内 居宅支援事業所		ケアマネージャー
元都立府中病院結核病棟		看護師
多摩府中保健所	企画調整課	事務
	生活環境安全課	環境衛生監視員
	保健対策課	医師、保健師、事務

○ 検討経過

第一回 検討会	8月21日（火）	1 事業の概要説明 2 既存の視聴覚教材の紹介 （財）結核予防会 結核研究所 永田 先生 3 今後のスケジュールと役割分担について
第二回 検討会	10月5日（金）	1 実態調査について 2 事例紹介 3 実態調査の項目の検討
第三回 検討会	2月18日（月）	2 実態調査の結果について 3 DVD作成進行状況報告

○ DVD撮影 3月3日（月） 検討会メンバー出演協力

2 在宅福祉サービス機関、職員に対する実態調査

1 調査目的

治療前の結核患者と接する可能性の高い福祉関係者の、結核の基礎知識、不安、予防対策などの実態を把握し、結核についての正しい知識を持ち、結核（疑い）患者と安心して接することができるための媒体作成と活用等、効果的な結核予防対策へ反映させる。

2 調査対象

在宅福祉関係者 責任者 113名

実務者 137名（6市生活保護ケースワーカーを含む）

3 調査方法 郵送による自記式調査

4 調査期間 平成19年12月19日～平成20年1月18日

5 調査項目

- ・調査対象者の結核に関する基礎知識の状況
- ・感染予防対策の取組状況
- ・結核対策について現場で役立つ教材 等

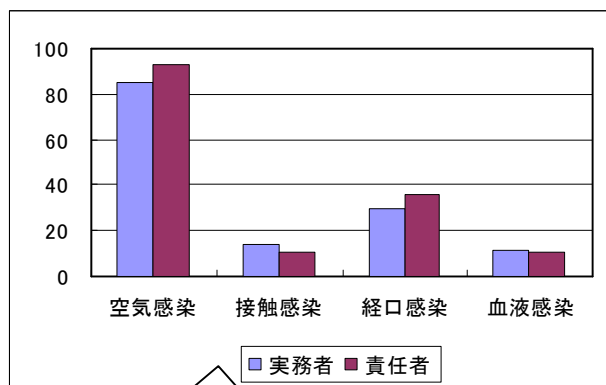
6 調査結果

調査票回収率

- ・責任者 調査票回収件数 59件（回収率 52.2%）
- ・実務者 調査票回収件数 85件（回収率 62.0%）

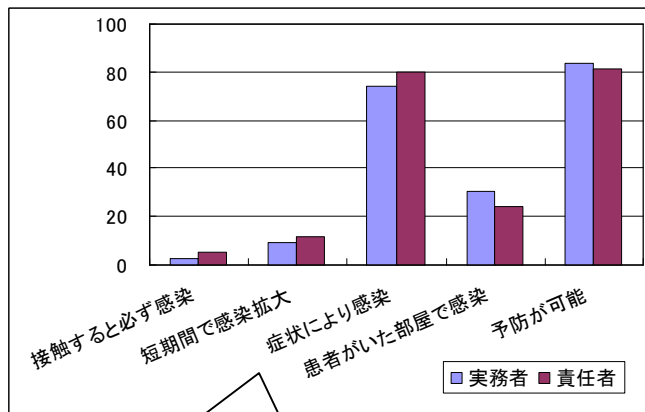
結核に関する基礎知識

図1 結核の感染経路は？（複数回答）



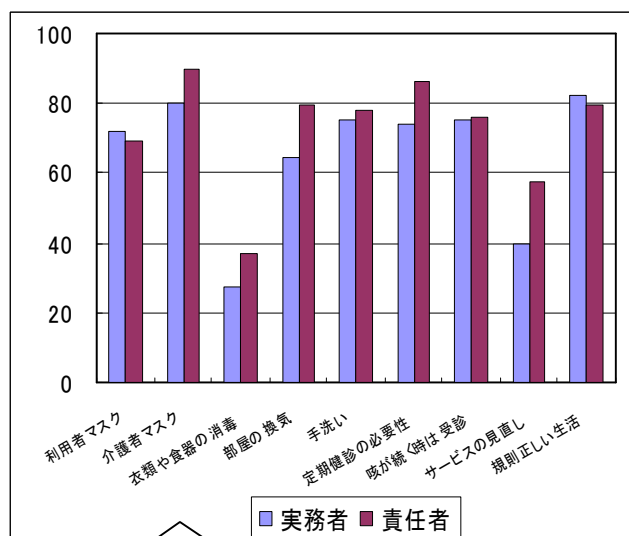
空気感染以外の回答も多い。感染経路についてどの程度認識されているのか？

図2 結核の感染力は？（複数回答）



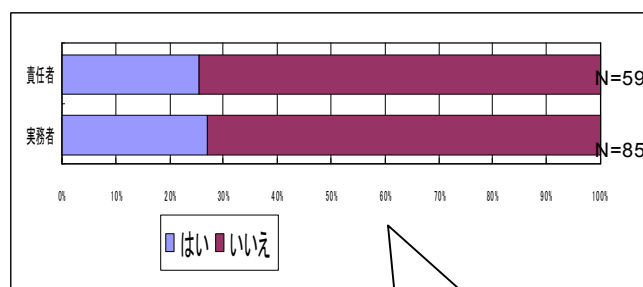
少数であるが、「接触すると必ず感染する」「短期間で感染拡大する」としている者あり。「患者がいなくな

図3 結核の予防対策で有効なものは？（複数回答）



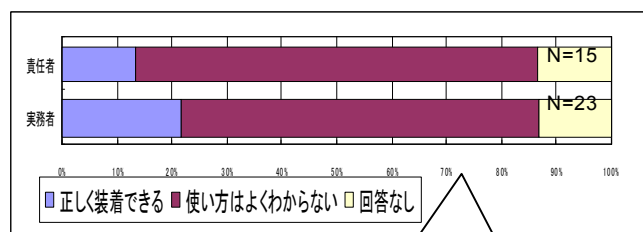
「利用者のマスク」は7割以下、「衣類や食器の消毒」を必要としている者が約4割であった。感染予防対策の正しい知識が必要。

図4 マスクN95を知っていますか？



N95マスクは知られていない。

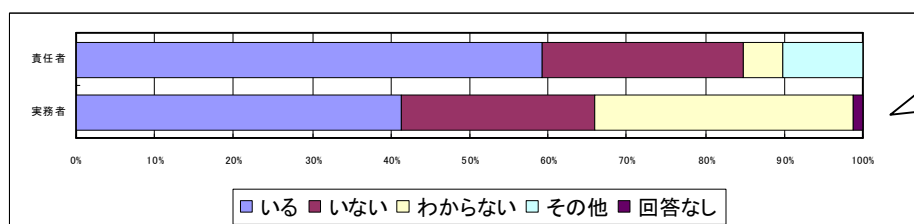
図5 (上記「知っている」とした回答者) N95マスクの使い方を知っていますか？



知っていても、使い方を知らない。

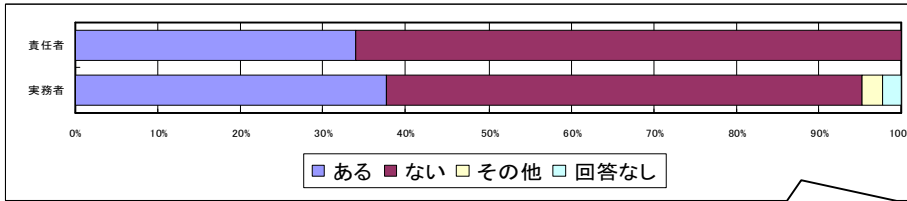
結核発生時の対応

図6 結核が発生した場合の対応窓口は決まっていますか？



対応窓口が決まっているのは半数程度と予測される。実務者には対応窓口がわからないとしている者が3割以上いる。

図7 過去の結核ケースの対応



3割以上は過去に結核患者の対応あり。しかも患者が発生した施設の7割は複数の患者に対応していた。この経験がその後の対応にどのように生かされているのかは不明である。

結核の患者が発生して実務者が困ったこととしては、「自分が感染するのではないかと心配」62%、「接触者健診がどのように行われるのかわからない」31%、「消毒のことがわからない」19%が多かった。その他、サービス拒否の事業所が出たこと、ヘルパー等どこまで接触者にするのか迷ったなどがあった。

施設責任者に対する質問

図8 日常の結核対策の取り組み (複数回答可)

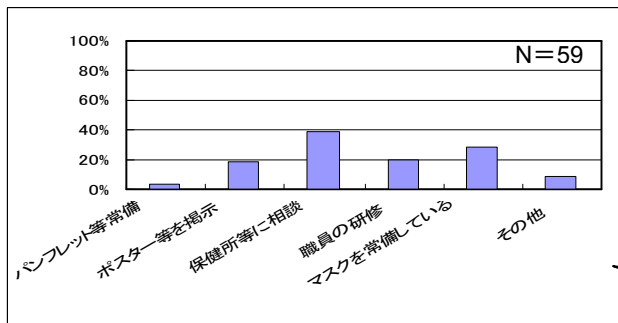


表1 左記回答で常備しているマスクの種類

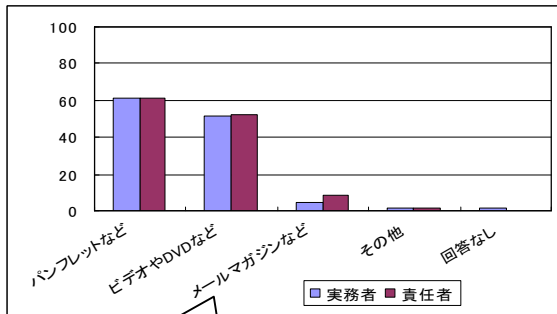
	回答数	パーセント
N95マスク	0	0.0%
それ以外のマスク	17	100.0%
合計	17	100.0%

N95マスク常備なし!

結核対策の取組は低い。特に、パンフレット等を常備は2事業所のみ、ポスター掲示、研修は2割であった。

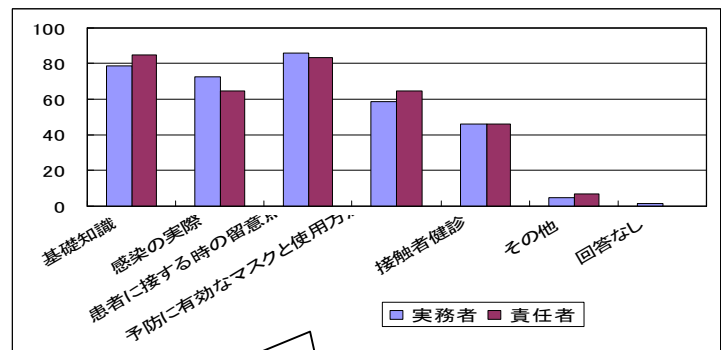
結核に関する教材の希望

図9 結核対策の教材について



ビデオ、DVDの他に、手元にあっていつでも見ることができるパンフレット等が望まれている。

図10 希望するDVDの内容



内容としては基礎知識が一番多いが、感染予防に関すること、特に患者と接触する時にどのようなことに注意すればよいのか等も希望する内容として多かった。

3 普及啓発ツールの開発

- 1 業者選定、打合せ・・・12月上旬～
- 2 シナリオ作成・・・1月中旬～
- 3 撮影・・・3月3日収録
- 4 納品・・・3月下旬

・内容は調査結果を反映
・マスクの装着、受診介助等は動画により、わかりやすさを工夫

～ 福祉関係者向け結核予防啓発DVD ～

知って安心・結核対応：目次

- こんな人はいませんか?
- 結核の現状
- 結核の基礎知識
- N95マスクとは
- 「咳のある人」との接し方
面接の時 受診介助の時
- 接触者健診